

## 14) ヴィクトリア女王と麻酔および関連事項

### Anesthesia and Related Events Connected with Queen Victoria

日本大学歯学部歯科麻酔学教室 金山利吉, 京田直人, 見崎 徹

Toshiyoshi Kanayama, Naoto Kyoda and Toru Misaki,  
*Department of Dental Anesthesiology Nihon University School of Dentistry*

1999 年はショパンの没後 150 年紀にあたり東京芸大の音楽学部では全曲演奏を企画し進行中です。我々の麻酔科領域でも 1840 年代の笑気, エーテル, クロロホルムの吸入による近代麻酔の誕生から数えて 1990 年代後半は 150 年紀を迎えたことになる。今回, 150 年前のイギリス国ヴィクトリア女王と麻酔とのかかわりについて若干の知見を拡大して夢物語を綴ってみたいと存じます。

ヴィクトリア女王の祖父のジョージ 3 世は 9 男 6 女の子福者だが王位継承者は 4 男のケント公エドワードに廻ってくる。しかし, 公は 27 年間にわたり愛人と同棲を続け, 50 歳すぎまで公妃を持たなかったがお家の一大事で 51 歳で王位継承者を儲けることを求められ, さる大公の末亡人ヴィクトリア・メアリー・ルイズと 1818 年結婚します。しかし内賜金を小額に抑えられ物価の高いロンドンを避けてベルギーやドイツで新婚生活を始める。公妃の懐妊がわかるとジブラルタル駐在時に「生まれる一人娘は必ず女王になる」といったジブシー占い女の予言を思い出し, さらに, 王位継承者はロンドン生まれという古事に従いドイツ・フランスを馬車で行きドーヴァを渡るという長旅が流産の危険なしではなかったが敢行しロンドンに到着, ケンジントン宮殿で 1819 年無事誕生したのが後のヴィクトリア女王です。1837 年 18 歳で即位戴冠し 1840 年 21 歳で同い年のいとこ筋のアルバート公と結婚する。夫婦仲睦まじく一人娘の女王は 5 男 4 女の子福者になります。ドイツ系ご一家から想像すると, シューマンの棒でメンデルスゾームのヴァイオリン協奏曲の初演や真夏の夜の夢をお聴きになった可能性がある。シュトラウス 1 世のアンネンポルカやラデッキー行進曲はもちろん聴いておられよう。ショパンの幻想ポロネーズや子犬のワルツも楽しまれたろうがリストにはあまり興味を示さなかったと思われる。しかし, バッハの無伴奏パルティータ 3 番や G 線上のア

リアがお好きではなかったか? 1800 年以後マードックがガス灯を普及させたとはいえ, 照明は不十分で演奏しやすいモーツァルトの一定速度もの, 中でもクラリネットクインテットの優雅さなどがお気に入りではなかったろうか。エミリーブロンテの嵐が丘は読まないだろうがディケンズの二都物語なら読まれたろう。ワーズワースやキーツの詩は口ずさまれ, 王子, 王女方にはグリム童話やアンデルセンは間違いなくお読みになられたろう。ミレーの晩鐘や落ち穂拾いはまだ無名で鑑賞できなかったに違いない。夫君にダーウィンや JS ミルの講義をして戴いたかもしれない。

麻酔史ではクロロホルムはエーテルや亜酸化窒素に比べて登場が遅く 1831 年 Liebig, Soubeiran, Guthrie により夫々別個に調合されている。1847 年 Simpson はエーテルを産科麻酔に使用するが不満足で, 同年クロロホルムを使用して, その満足の結果を学会に発表する。その三日後に教会の狂信的反対が起こる。「麻酔で陣痛を和らげることは旧約聖書創世記 (3-16) の“おまえは子を生むとき苦しまねばならない”と言う指示に矛盾する」となじた。彼らは全員男性で「神様がアダムの肋骨一つを取り除くとき, 麻酔をお使いになった (2-21) のを忘れたか無視した」のだ。Simpson は少しもあわてず「医学会は出産に麻酔を持ち込むことに当分の間反対するかもしれないが, それは無駄な努力だ。産婦たち自身が医師に麻酔の使用を要求さらには強制するのは確実だ。議論の焦点は時間の問題だけだ」と言ったものだ。そしてその時間は三年後の 1850 年にヴィクトリア女王が第 7 子アーサー王子の出産に際し Simpson にクロロホルムの質問をし理解を示したことに始まり, 1853 年第 8 子レオポルド王子の出産には当時の麻酔の大家 Snow にクロロホルム麻酔をかけて貰ったのである。30 ml のクロロホルムをハンカチに浸して吸入し「麻酔は痛みを和らげ,

気分を落ち着かせ、全く素晴らしい」と太鼓判を押したので麻酔の人気は巷間伝えられる一端を負うことになる。さらに1857年第9子ベアトリス王女の出産もSnowに麻酔を所望するのである。結局、女王は1857年までの17年間に9人を儲けられ、しかも全員無事の出産をされた身長152cm体重57kgのガッチリした体格の女性だったと言われている。当時の分娩出産時の産褥婦死亡率は極めて高かった(11%)ことを考えると極めて幸運だった訳です。いわゆる産褥熱(childbed or puerperal fever)の予防に関してはSemmelweisが1847年に分娩介助者の手洗いと分娩用具のクロール水溶液に浸すことを提唱しており、彼は1861年には産褥婦の死亡が助産婦担当病棟(3.4%)の方が医師担当病棟(9.9%)より少ないことを発見し、環境状態は同一なのに唯一つの違いは医師達は屍体の剖検を手伝うが、助産婦達は手伝わないことが死亡率の差を招いていると考えた。医師の手が屍体の腐敗した動物性有機物を次の産婦の傷ついている産道に運ぶためだと見抜き、産褥熱の原因は感染と伝播であることを提示した。

Pasteurが腐敗の原因となる微生物を発見したのは翌々1863年で、これがListerに影響を与えて1869年に汚染した複雑骨折の治療に石灰酸の消毒を行い無菌的手術aseptic surgeryの誕生につながる訳です(明治2年)。1853年はペリーが浦賀に来た年で、Pravazが硝子の注射筒を、Wood

が皮下注射用のシリンジ、針を発明している。Laennecが1816年に発明した片耳聴診器が1855年にCammanにより両耳型となり、またGaedickeがコカインを抽出している。南米渡来の矢毒クラレが1857年にClaude Bernardにより筋神経接合部への作用が証明されたり、クリミア戦争(1854~56)でナイチンゲールが活躍したりなど19世紀中頃は興味深い。

本編の締めは以下の通りである。ヴィクトリア女王は歯周病だった?分娩陣痛の痛みは障子のサンが見えなくなる程だと言う。歯を食いしばって何時間も頑張れば歯はガタガタになろう。当時歯ブラシはあったのか歯周の手入れは容易にやれたのか知らない。子供が多いほど歯は痛んでいるに違いない。ヴィクトリア女王は6人の子で歯が痛んで7人目で麻酔の発達に目を向けられ、第8・9子の子産時にはとうとうクロロホルム同好会に入られたのであろうか。麻酔の誕生以後の普及は、欧米も日本も殆ど変わらない。1857年Pompeがクロロホルム麻酔を日本に紹介、1861年伊東玄朴がクロロホルム麻酔下に下肢切断術を行い、1868年(明治元年)戊辰戦争では戦傷者手術の麻酔に利用されている。本年は2000年、情報技術がどんどん進行しているが、人より機械の方が勝れていると感違いせずSteady, Safety, Speedy and Smileの心構えで信頼される臨床麻酔を続けたい。